

実は今後30年間は消費人口が 減らない東京

アーバンシステム管理(株)
坂田和哉

目次

◆ テーマ

◆ 日本全体の消費人口の推移予測

◆ 東京の消費人口の推移予測

◆ 年齢別消費支出金額を考慮した消費規模予測

◆ まとめ

テーマ

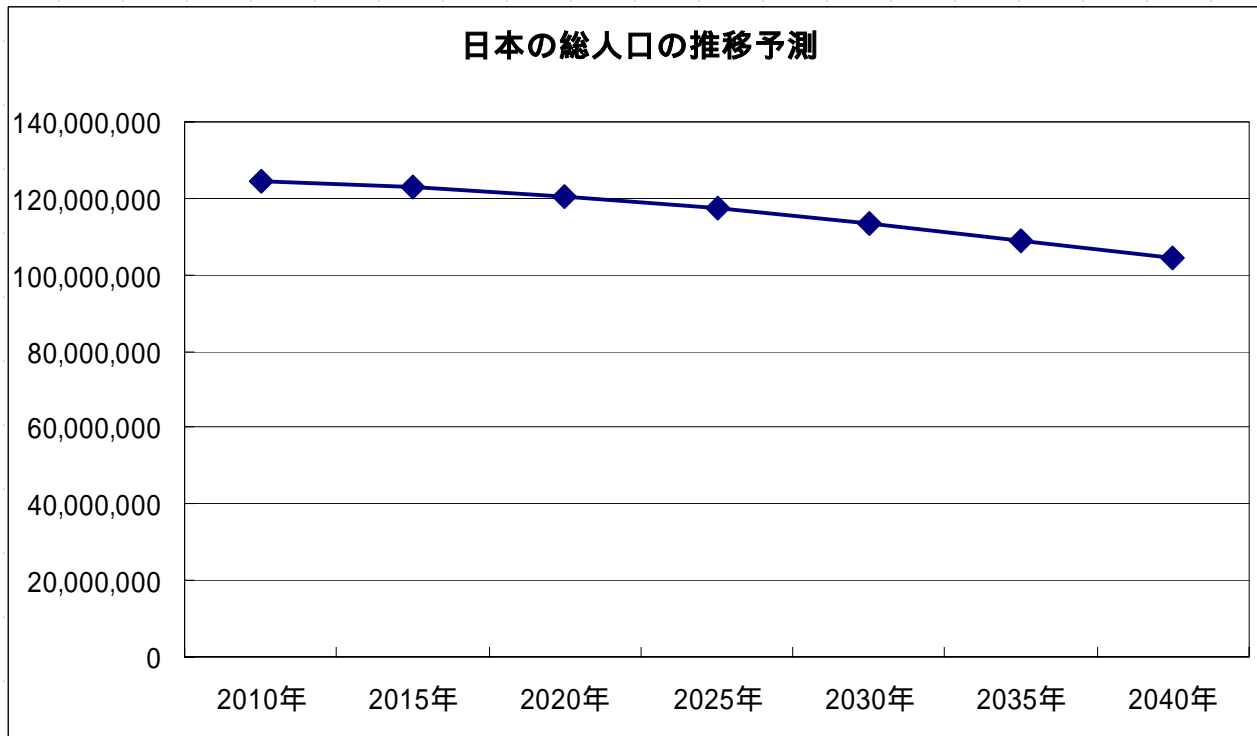


- ◆ 日本の人口減少が様々な分野で大きな社会問題と認識されている。
- ◆ その中で単純には日本の消費人口も減少し消費規模も縮小すると予測される。
- ◆ その場合、人口減少による消費規模の減少は一体どの程度なのか？
- ◆ また、東京だけの消費規模を見た場合ではどうか？
- ◆ 人口動態及び年齢別消費支出金額に焦点を当てて、日本全体と東京の今後30年の消費規模の推移の違いを推定する。

日本全体の消費人口の推移予測

1. 日本の総人口の推移予測

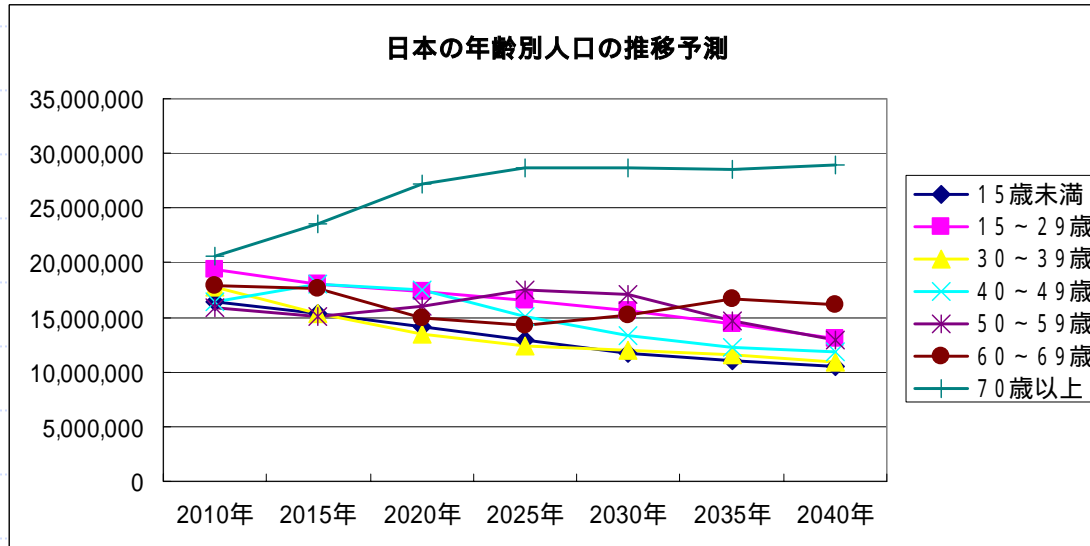
日本の今後の総人口は約30年間で約2千万人減少し16%減の1億人に近づくと予測されている。



日本全体	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	変化率 (30年間)
総人口	124,379,040	123,025,332	120,624,443	117,308,870	113,404,610	109,056,271	104,365,170	-16.1%

2. 日本の年齢別人口の推移予測

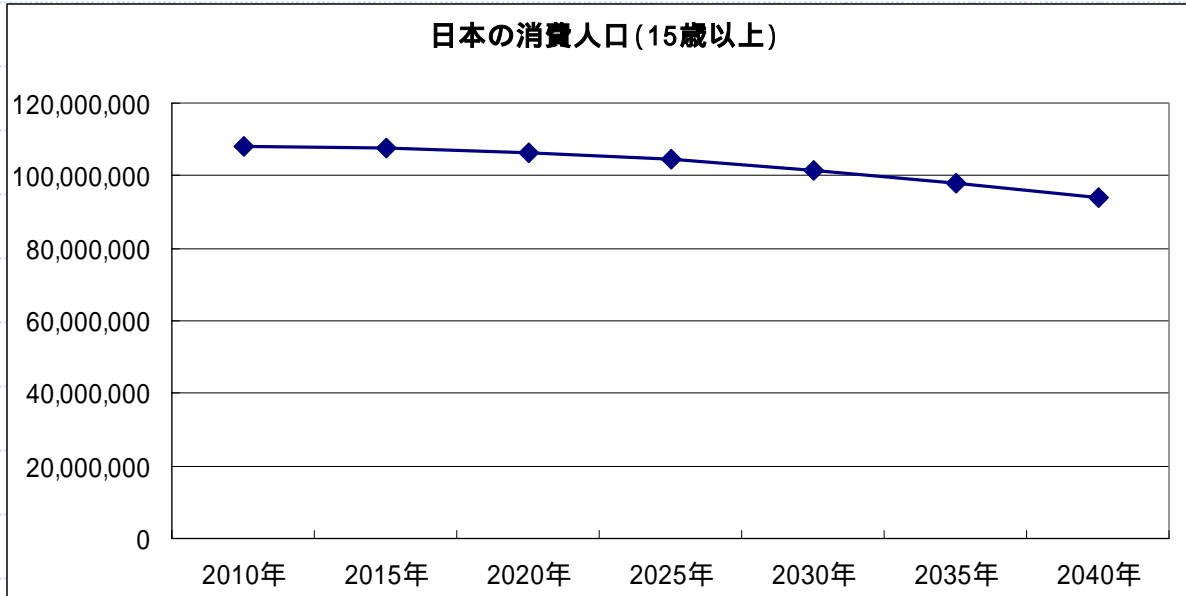
日本の年齢別人口の推移予測では今後30年間で「70歳以上」以外の年齢層は全て減少となり、少子高齢化傾向が顕著になることが予測される。



日本全体(年齢別)	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	変化率(30年間)	年齢別比率(2040年)
15歳未満	16,361,951	15,389,870	14,171,853	12,882,546	11,714,476	10,985,567	10,449,888	-36.1%	10.0%
15~29歳	19,429,574	18,069,647	17,302,997	16,553,401	15,607,721	14,404,571	13,105,280	-32.5%	12.6%
30~39歳	17,799,243	15,291,859	13,480,319	12,367,616	11,959,303	11,528,950	10,880,822	-38.9%	10.4%
40~49歳	16,445,728	18,029,038	17,512,137	15,065,998	13,291,947	12,201,857	11,803,992	-28.2%	11.3%
50~59歳	15,912,921	15,062,773	15,983,948	17,544,331	17,045,770	14,678,721	12,961,714	-18.5%	12.4%
60~69歳	17,884,428	17,658,977	15,006,925	14,255,460	15,166,856	16,679,246	16,209,523	-9.4%	15.5%
70歳以上	20,545,195	23,523,168	27,166,264	28,639,518	28,618,537	28,577,359	28,953,951	40.9%	27.7%

3. 日本全体の消費人口の推移予測

「生産人口(15歳～65歳) + 65歳以上」の人が実質的な消費主体者と考えられる為、「15歳以上」を消費人口とすると消費人口は今後30年間で日本全体で13%減の約14百万人が減少すると考えられる。



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	変化率 (30年間)	年齢別比率 (2040年)
消費人口 (15歳以上)	108,017,089	107,635,462	106,452,590	104,426,324	101,690,134	98,070,704	93,915,282	-13.1%	90.0%
非消費人口 (15歳未満)	16,361,951	15,389,870	14,171,853	12,882,546	11,714,476	10,985,567	10,449,888	-36.1%	10.0%

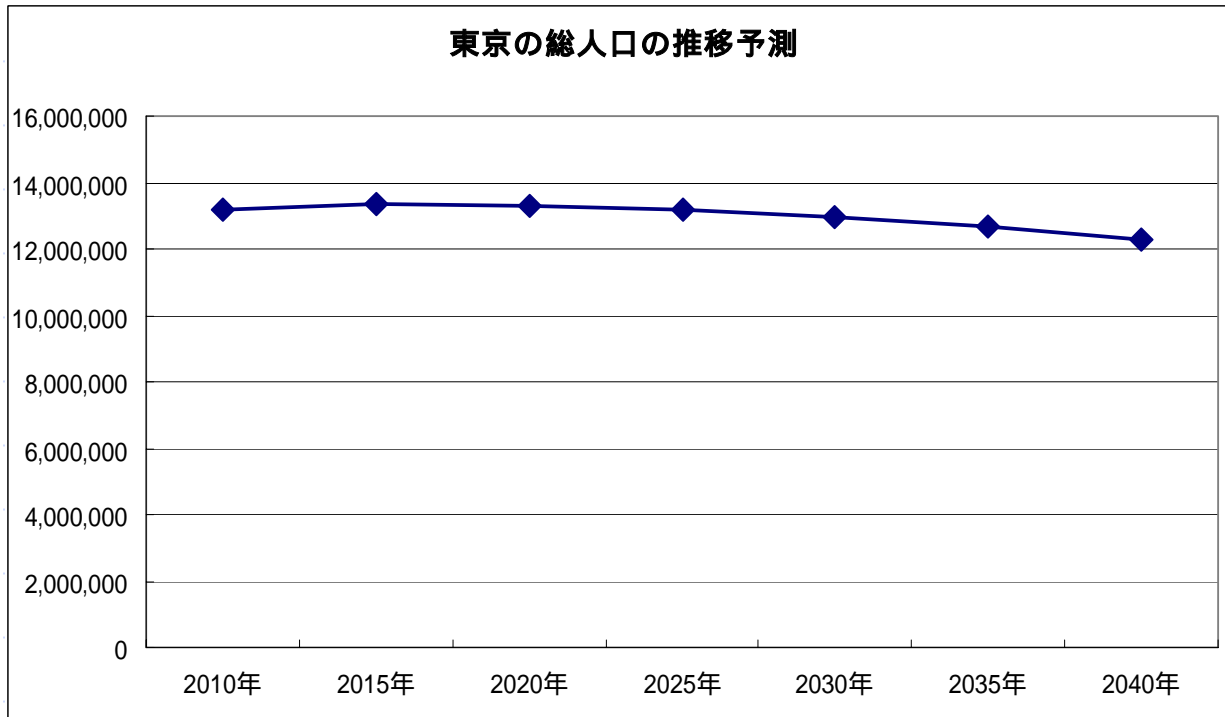
4. 考察

- ◆ 日本の総人口は、今後30年間で16%減の約20百万人が減少し1億人に近づく。
- ◆ また、「15歳以上」の消費人口で見ると13%減の14百万人が減少する。総人口に比べて消費人口の減少が緩やかなのは少子高齢化が進む構造的な要因による為である。
- ◆ 日本全体の消費人口の内訳では、「70歳以上」は増加するが70歳未満の人口は50代及び60代も含めて全ての年齢層で減少する。

東京の消費人口の推移予測

1. 東京の総人口の推移予測

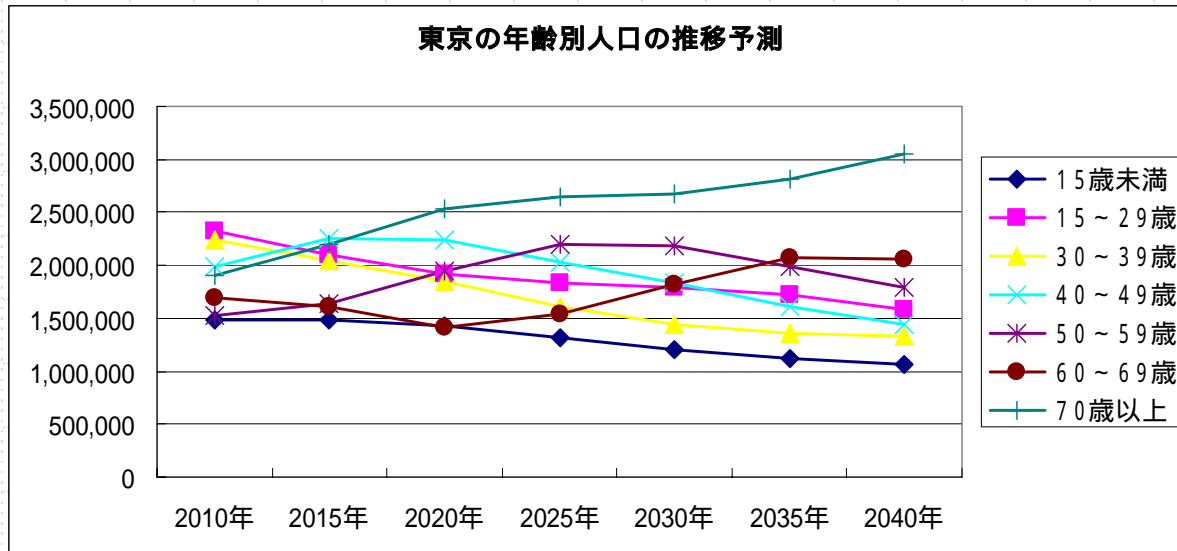
日本の今後の総人口は約30年間で16%減と予測されているのに対し、東京の総人口は6.5%減と小幅な減少となることが予測されている。



東京	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	変化率 (30年間)
人口	13,159,388	13,349,453	13,315,321	13,178,672	12,956,522	12,662,691	12,307,641	-6.5%

2. 東京の年齢別人口の推移予測

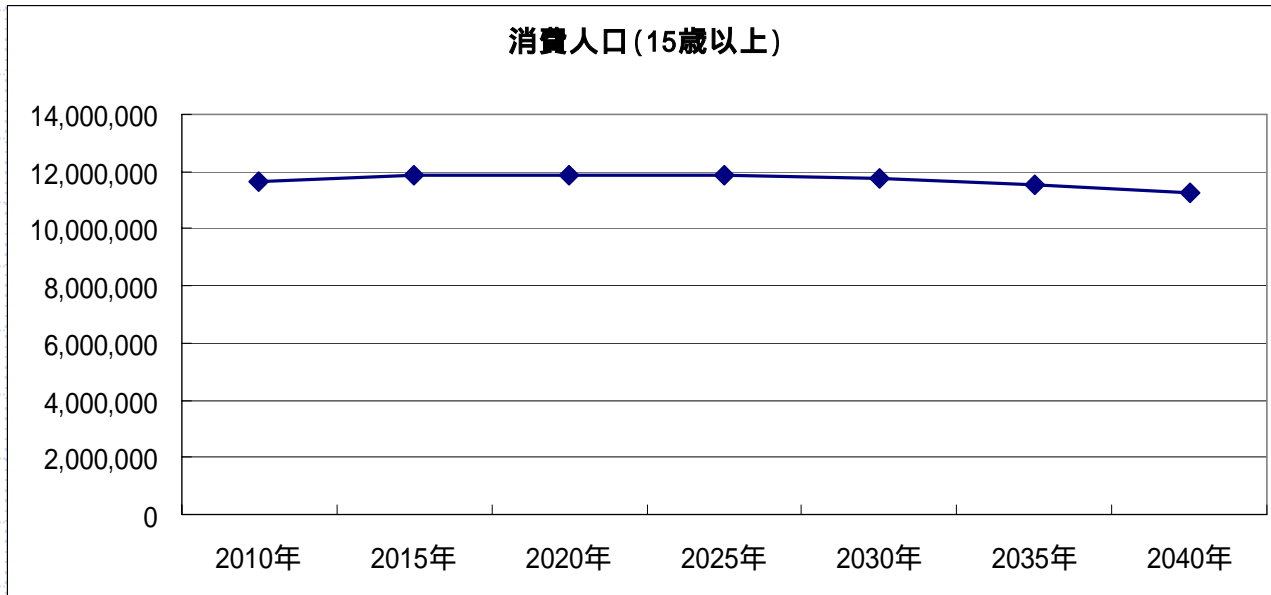
日本の年齢別人口の推移予測では今後30年間で「70歳以上」以外は50代及び60代も含めて全て減少となるが、東京では50代及び60代は逆に増加することが予測されている。いずれにしても、東京でも少子高齢化傾向が進むことは明白であるが、東京では50歳未満の人口減を50代及び60代の増加が補う構造であることがわかる。



東京人口(年齢別)	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	変化率(30年間)	年齢別比率(2040年)
15歳未満	1,486,100	1,484,194	1,421,405	1,311,870	1,197,557	1,122,106	1,061,064	-28.6%	8.6%
15~29歳	2,328,128	2,105,569	1,917,471	1,840,829	1,797,127	1,716,523	1,580,476	-32.1%	12.8%
30~39歳	2,240,515	2,048,190	1,850,321	1,611,427	1,440,593	1,354,561	1,323,759	-40.9%	10.8%
40~49歳	1,986,532	2,253,617	2,237,373	2,035,149	1,839,020	1,604,794	1,438,280	-27.6%	11.7%
50~59歳	1,520,970	1,640,740	1,942,528	2,199,973	2,185,064	1,988,138	1,797,484	18.2%	14.6%
60~69歳	1,699,368	1,613,389	1,411,627	1,533,675	1,822,335	2,067,262	2,053,886	20.9%	16.7%
70歳以上	1,897,775	2,203,754	2,534,596	2,645,749	2,674,826	2,809,307	3,052,692	60.9%	24.8%

3. 東京の消費人口の推移予測

日本の「15歳以上」の消費人口は今後30年間で13%減少するが、東京の消費人口は3.7%減と微減であり、今後30年間ではほとんど減少しないと予測される。これは、東京では消費人口の内、「70歳以上」だけでなく50代及び60代の人口も増加する為、40代以下の人口減を補うからである。



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	変化率 (30年間)	年齢別比率 (2040年)
消費人口 (15歳以上)	11,673,288	11,865,259	11,893,916	11,866,802	11,758,965	11,540,585	11,246,577	-3.7%	91.4%
非消費人口 (15歳未満)	1,486,100	1,484,194	1,421,405	1,311,870	1,197,557	1,122,106	1,061,064	-28.6%	8.6%

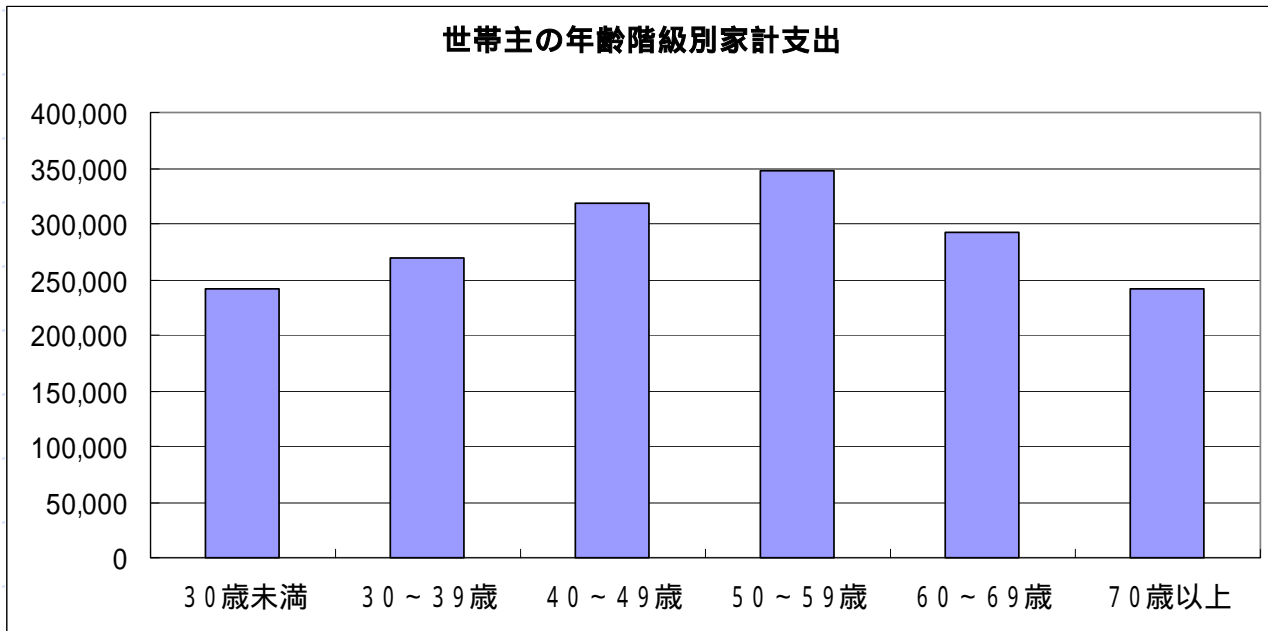
4. 考察

- ◆ 日本の総人口は今後30年間で16%減少するのに対し、東京は6.5%の減少と小幅である。
- ◆ また、消費人口で見ると日本全体は13%減少するのに対し、東京では3.7%減と今後30年間ではほとんど減少しないと予測される。
- ◆ 日本全体とは違い、東京では消費人口の中でも比較的消費支出の多い50代及び60代の人口は増加する。消費規模の点では、東京は40代以下による消費規模の減少を50代及び60代の増加がある程度補うことが考えられる。

年齢別消費支出金額を考慮した 消費規模予測

1. 年齢別消費支出金額

2013年の総務省家計調査によると年齢別消費支出金額は以下の通りとなる。
 これによると50代、40代、60代が比較的に消費支出が多い年齢層であることが分かる。

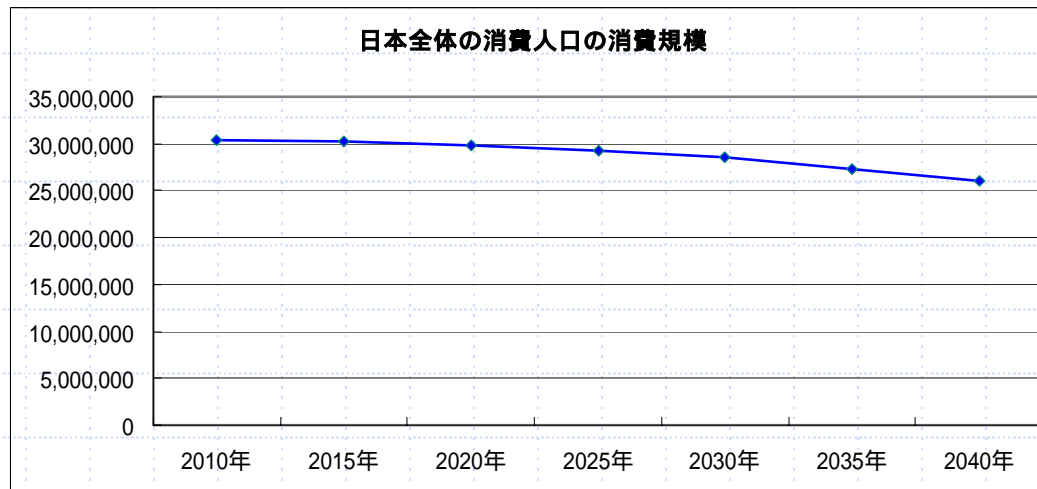


年齢	30歳未満	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70歳以上
消費金額	241,623	269,656	318,624	347,820	291,847	241,273

出所: 総務省(2013年家計調査)、円 / 月

2. 日本全体の消費規模

前述の年齢別消費支出金額と年齢別人口を用いて消費規模の推移を推計してみたところ、日本全体の消費規模は今後30年間で14.3%減少することが予測されるが、消費人口の減少幅(13.1%)より若干悪化している。これは、比較的消費支出が多い40代から60代も含めて消費人口が全体的に減少しているのを「70歳以上」の人口増加の消費規模が補いきれていない為である。

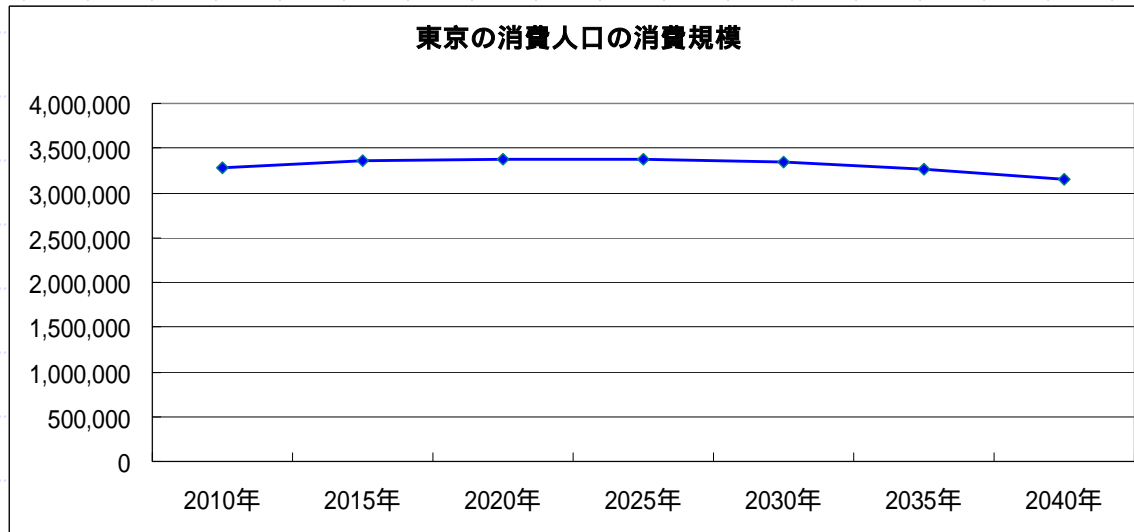


消費人口の消費規模	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	変化率 (30年間)	年齢別比率 (2040年)
15～29歳	4,694,632	4,366,042	4,180,802	3,999,682	3,771,184	3,480,476	3,166,537	-32.5%	12.1%
30～39歳	4,799,673	4,123,542	3,635,049	3,335,002	3,224,898	3,108,851	2,934,079	-38.9%	11.2%
40～49歳	5,240,004	5,744,484	5,579,787	4,800,389	4,235,133	3,887,804	3,761,035	-28.2%	14.4%
50～59歳	5,534,832	5,239,134	5,559,537	6,102,269	5,928,860	5,105,553	4,508,343	-18.5%	17.3%
60～69歳	5,219,517	5,153,719	4,379,726	4,160,413	4,426,401	4,867,788	4,730,701	-9.4%	18.1%
70歳以上	4,957,001	5,675,505	6,554,486	6,909,942	6,904,880	6,894,945	6,985,807	40.9%	26.8%
合計	30,445,658	30,302,427	29,889,387	29,307,698	28,491,357	27,345,416	26,086,502	-14.3%	100.0%

注) 消費規模 = 消費支出全額 × 人口 (世帯主と人口の推移が同水準と仮定) 単位は百万円 / 月

3. 東京の消費規模

前述の年齢別消費支出金額と年齢別人口を用いて消費規模の推移を推計してみたところ、東京の消費規模は今後30年間で約3.8%減と微減であることが予測される。これは消費人口の減少幅と同水準であり、比較的消費支出の多い50代及び60代の増加が40代以下の減少を補っている為である。



消費人口の消費規模	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	変化率 (30年間)	年齢別比率 (2040年)
15～29歳	562,529	508,754	463,305	444,787	434,227	414,751	381,879	-32.1%	12.1%
30～39歳	604,168	552,307	498,950	434,531	388,465	365,266	356,960	-40.9%	11.3%
40～49歳	632,957	718,056	712,881	648,447	585,956	511,326	458,271	-27.6%	14.5%
50～59歳	529,024	570,682	675,650	765,195	760,009	691,514	625,201	18.2%	19.8%
60～69歳	495,955	470,863	411,979	447,598	531,843	603,324	599,420	20.9%	19.0%
70歳以上	457,882	531,706	611,530	638,348	645,363	677,810	736,532	60.9%	23.3%
合計	3,282,515	3,352,368	3,374,295	3,378,906	3,345,863	3,263,991	3,158,263	-3.8%	100.0%

注) 消費規模 = 消費支出全額 × 人口 (世帯主と人口の推移が同水準と仮定) 単位は百万円 / 日

4. 考察

- ◆ 日本全体の消費規模は年齢別人口推移及び消費金額を考慮した場合、今後30年間で14.3%の縮小が予測される。
- ◆ 逆に東京の消費規模は同様に推計した場合、3.8%減と今後30年間ではほとんど減少しないと考えられる。

まとめ

- ◆ 今後30年間で日本全体の「15歳以上」の消費人口は13.1%減少するが、東京の消費人口は3.7%減とほとんど減少しない。
- ◆ 消費人口に年齢別の消費支出金額の違いを考慮した消費規模を推計したところ、今後30年間で日本全体では消費規模が14.3%減少する。日本全体では、比較的消費支出の多い50代や60代も人口減少することが原因で消費人口のケースより減少幅が大きくなっている。
- ◆ 逆に、東京の消費規模は3.8%減と消費人口のケースと同水準であった。これは今後30年間は東京では50代や60代も人口増加する為、40代以下の減少をある程度補うからである。
- ◆ 今後日本でも東京でも少子高齢化が進むが、日本全体と違い東京では比較的消費支出の多い50代及び60代の人口も増加し、東京での消費規模は今後30年間はほとんど縮小しないことが予測される。
- ◆ 但し、30年後以降では東京でも消費人口減による消費規模の縮小が次第に無視出来ない水準まで大きくなってくることが考えられる。少子高齢化人口減に対する有効な対策が今後実現することを期待する。